

梅原少右衛門殿

和田 眞齋

○按ズルニ、右ハ藤堂高虎ノ年譜ナリ、

〔秦山集甲乙錄著

〕

忌獸肉自神代始、法定於延喜之間、垂加開齋。曰、以其似人也、卜部家曰、二字物不

食、馬、牛、猫、鹿等也、三字物食之、兎、狸等也、泰福卿曰、四足物禁裏戒之、決不可食也、馬、牛、犬之類、託人而

居、殺之不仁、甚似異國人、但卯不忌之、仁德紀有佐伯部獻牡鹿事、古者或進、或不進、歟、日本姬甚忌之、

泰福卿曰、後光明帝甚信儒教、師彝倫庵、輕神道、不用佛法、嘗勅供獸肉、有司以狸進、御內膳正將施庖

丁、而忌其不祥、不敢下手、屢代人而皆不肯、終棄之、尋御清所出火、內裏炎上、翌年新殿未成、帝患庖瘡

崩、此帝世奉稱聖帝、然未合神慮、歟、浮屠家乃謂佛之崇、凡帝之所以改正、皆復舊、可惜之甚、

〔難波江六〕獸肉を喰ふ事エトリ 穢多

友人山田昌榮の説に、近日人多く獸肉を喰ふ、よからぬことなり、攝生にわろし、いかで禁斷の御令もがなといひて、道三翁養生物語と、太田氏の梧窓漫筆後篇とを證とす、

道三翁養生物語には、く、天照太神ノ御慈悲ト、大己貴尊ノ知恵ニテ、肉食ハケガレニタテ、

戒メテクハセ玉ハズ、

太田氏梧窓漫筆後篇上には、く、我邦は四面大海故、魚類極テ多シ、故ニ人獸肉ヲ食フコトヲ不好、四足ヲ食ヘバ穢レ也トテ、國家ノ令甲ニモアリ、世人モ斯ク覺エテ忌ミ嫌ヒツ、是モ佛法仁柔ノ餘功ナルベシ、然ルヲ香川修徳トイヘルモノ、邦人ハ獸肉ヲ食ハザル故ニ虛弱ナリナド、云ヒオドセシ故、近年ハ山國ノ人ノミナラズ、海邊ノ魚肉多キ處マデ、皆々好テ食フコトニハナリタリ、

孝保岡本云、香川修徳太沖父ト云モノ、一本堂藥選三卷ヲカキテ、其下編鹿ノ條ニ、本邦ニテ